

第22回全国中学生都道府県対抗野球大会 in 伊豆 大会概要

2024年9月25日 現在
※後援団体等一部申請中

- 1 目的 「明日の日本を担うグローバルな青少年を育てる」という教育視点より、
① 野球競技を通じた青少年の健全な育成
② 中学生の身体の成長段階を考慮し高校野球へのスムーズな移行
③ 開催地の地域活性化への寄与 を目的とする。
- 2 会期 2024(令和6)年11月2日(土)～4日(月祝) 予備日11月5日(火)
※試合日程はトーナメント表の通り
- 3 会場 「伊豆志太スタジアム」 静岡県伊豆市下白岩1434
「伊東市営かどの球場」 静岡県伊東市鎌田1281-1
- 4 主催主管 一般財団法人日本中学生野球連盟
- 5 共催 沼津市 熱海市 三島市 伊東市 伊豆市 伊豆の国市 清水町
- 6 特別後援 一般財団法人全日本野球協会(B F J)
公益財団法人日本野球連盟(J A B A)
公益財団法人全日本軟式野球連盟(J S B B)
静岡県東部地域スポーツ産業振興協議会(E-S p o)
全国中学生都道府県対抗野球大会応援議員連盟
日本中学生野球連盟後援会・応援団の会
- 7 後援 スポーツ庁 静岡県 沼津市教育委員会 三島市教育委員会
熱海市教育委員会 伊東市教育委員会 伊豆市教育委員会
伊豆の国市教育委員会 清水町教育委員会 NHK 全国新聞社事業協議会
株式会社共同通信社 読売新聞社 静岡新聞社・静岡放送
- 8 協力 静岡県野球連盟 日本大学国際関係学部硬式野球部
株式会社JTB ヒューマンアカデミー株式会社 三島信用金庫
伊豆箱根鉄道株式会社 一般財団法人デジタルスマートシティ推進財団
- 9 協賛 シダックス株式会社(特別協賛) ナガセケンコー株式会社

10 大会本部

- (1) 会期中：「ホテルワイナリーヒル」内 静岡県伊豆市下白岩1434
担当：梅沢 直充 TEL：090-6543-0427
- (2) 会期前、会期後：「一般財団法人日本中学生野球連盟」内
東京都千代田区紀尾井町4-1 ニューオータニビジネスコート10F
TEL：03-3221-5072 携帯：090-6543-0427(梅沢携帯)

11 出場資格 日本国内の中学校に在籍する生徒で、当連盟都道府県支部の定める方法により選抜、編成され、ブロックで出場権を得たチームとする。

12 チーム編成 (ブロック代表選考、本戦とも同様とする。)

(1) チームスタッフ 5名以内

<内訳> 団長(引率責任者)1名 監督1名 コーチ2名以内 マネージャー1名
(役職の兼任可。団長・監督・コーチは成人のみ。マネージャーは中学生でも可。)

(2) 選手(中学生) 20名以内

投手の負担軽減の観点から、投手ができる選手を多く登録すること。なお、選抜チームではなく学校部活動などの単独チームでの参加の場合は、ブロック内の他チームから2名を上限として投手に限り補強を認める(選手数は20名以内に収めること)。

13 ブロック出場枠

以下の通りとする。ブロック代表選考については、各ブロック理事の管轄のもとに執り行う。

	北海道	東北	関東	北信越	東海	近畿	中国	四国	九州沖縄	合計
出場枠	1	2	3	2	2	2	1	1	2	16

14 競技規則

- (1) 2024年公認野球規則および別に定める大会特別規則による。
- (2) 使用球はM号ボール(赤ライン加工)とする。

15 競技方法 優勝戦と復活戦を実施する。優勝戦一回戦敗退チームは復活戦に出場する。
全試合トーナメント方式とし、各試合は7回戦とする。
細則は大会特別規則に定める。

16 組合せ 抽選は主催者による責任代理抽選とし、抽選結果は日本中学生野球連盟HPに掲載する。

17 監督・主将会議 11月1日(金) 16:00～16:30

出場チームの監督並びに主将は、ユニフォーム着用の上、必ず参加する。なお、やむを得ず欠席する場合は代理出席を認める。

会場：シャトーT.S

静岡県伊豆市下白岩1433-27 (ホテルワイナリーヒルより車約3分)

TEL 0558-83-5111

18 開会式 11月1日(金) 16:30～17:00

監督・主将会議に出席した2名が参加する。

式次第は確定次第、チームに通知する。

会場：シャトーT.S(同上)

19 出場手続

(1) チーム代表者に送付する所定の様式で作成し、代表決定後速やかに下記のメールアドレスに送信する。

(2) 申込先

一般財団法人日本中学生野球連盟 大会事務局
担当：梅沢 直充
携帯：090-6543-0427
MAIL：entry@jjbf.jp (大会出場手続専用メールアドレス)
TEL：03-3221-5072
HP：<https://www.jjbf.jp/>

20 宿泊等

(1) 「宿泊等手配要項」を別に定める。大会期間中の宿泊、昼食(お弁当)等については、適切な危機管理対応に期するため、必ず指定の業者を通じて申し込むこと。

(2) 申込は「宿泊等手配要項」を確認の上、代表決定後速やかに申し込む。

株式会社JTB スポーツマーケティング事業部 スポーツ営業第2課
第22回全国中学生都道府県対抗野球大会デスク
担当：青山・飯島・今村
住所：〒163-0454 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビルディング54階
TEL：03-5909-8676
MAIL：jjbf@jtb.com
営業時間：9:30～17:30 (土日・祝日は休業日)

21 大会出場費 1チームあたり30,000円、参加登録選手1人あたり2,000円を、来場時に大会本部に納入する。

22 交通費補助 出場チームに、大会本部が定めた金額を交通費の一部として補助する。
金額や振込期日については、大会本部より出場チームに連絡する。

23 試合のインターネット等によるL I V E配信

優勝戦、復活戦の全22試合の中継映像を、大会特設サイトにてインターネットL I V E配信を行う(スマートフォン・タブレット端末・PCにて視聴可能)。

詳細については大会特設サイト <https://jjbf-bbt.jp> を参照。

24 個人情報の取り扱い

大会の主催者は、個人情報保護に関する法令を遵守し、提供された個人情報について適正に取り扱う。本大会における事務連絡、プログラム制作、連盟公認サイト及び同SNSへの掲載、インターネット及び衛星放送による試合の動画配信、報道関係機関への提供、宿泊施設への提供、記録や賞の発表、行政機関等からの問い合わせへの対応、その他大会運営に必要な範囲に使用するものとし、大会参加者はこれに同意するものとする。

25 その他

(1) 大会参加者は期間中の万が一の傷害に備え、スポーツ安全保険等に事前に加入する。
また、各自、保険証のコピーを必ず持参する。

(2) 車イスでご来場の方、障害者手帳をお持ちの方は、大会本部にお声掛けください。
なお、状況によっては特別な対応がとれない場合がありますので、予めご了承ください。

【お問い合わせ先】

一般財団法人日本中学生野球連盟 事務局 梅沢 直充

TEL : 03-3221-5072

携帯 : 090-6543-0427

MAIL : umezawa@jjbf.jp

HP : <https://www.jjbf.jp/>

【表 彰】

[優 勝 チ ー ム]

文部科学大臣杯・富士山杯(静岡県知事賞)・優勝旗・優勝盾・賞状・優勝記念メダルを授与する。

- ① 文部科学大臣杯(文部科学省) 持ち回り
- ② 富士山杯(静岡県知事賞) 持ち回り
- ③ 優勝旗(日本中学生野球連盟) 持ち回り
- ④ 優勝盾(日本野球連盟)
- ⑤ 賞状(文部科学省、静岡県、日本中学生野球連盟、日本野球連盟、NHK、読売新聞社)
- ⑥ メダル(優勝記念の金メダル 選手、団長、監督、コーチ、マネージャーの25名以内)

[準 優 勝 チ ー ム]

準優勝杯・準優勝盾・賞状・準優勝記念メダルを授与する。

- ① 準優勝杯(日本中学生野球連盟)
- ② 準優勝盾(日本野球連盟)
- ③ 賞状(日本中学生野球連盟、日本野球連盟、NHK、読売新聞社)
- ④ メダル(準優勝記念の銀メダル 選手、団長、監督、コーチ、マネージャーの25名以内)

[3位チーム(2チーム)]

日本中学生野球連盟から賞状・盾を授与する。

[復 活 戦 優 勝 チ ー ム]

日本中学生野球連盟から賞状・盾を授与する。

[参 加 賞]

参加者の全員に参加賞を授与する。

[志 太 勤 賞 ・ 山 本 英 一 郎 賞]

大会で活躍した選手に授与する。

※志太勤・・・日本中学生野球連盟会長。中学生時代は軟式野球、静岡県立葦山高校進学後に硬式野球部に入部、投手。甲子園を目指し猛練習に励んでいたが、高校2年生のときに肩・肘を故障し野球を断念。夢を野球からビジネスに切り替え、シダックスを創業。そして2001年、「高校時代の辛い思いを、今の子どもたちに経験してほしい」という強い想いのもと、当連盟を創設した。志太勤賞は、第18回(2018年)大会より、大会で活躍した選手1名(選考)に贈呈される賞として制定された。

※山本英一郎・・・全日本アマチュア野球連盟会長、日本野球連盟会長などアマ球界の要職を歴任。野球の国際化に尽力し、志太勤・当連盟会長とともに世界への普及に多大な貢献をした。1997年、野球殿堂入り。2006年5月没。享年87歳。山本英一郎賞は、氏の功績を讃え、第6回(2006年)大会より、大会で活躍した選手1名(選考)に贈呈される賞として制定された。

【競技上の注意事項】

2024年9月13日現在
一般財団法人日本中学生野球連盟

円滑な大会運営を実現するために、事前にチーム内で必ず共有の上、徹底をお願いいたします。

1 試合当日の到着時間について

監督に引率されたチームは、試合開始予定時刻の1時間前までに会場に到着し、その旨を大会本部（以下、本部）に申し出る。試合開始予定時刻になってもチームが会場に到着せず、何ら連絡がない場合には棄権とみなす。交通事情等やむを得ない理由で遅延した場合は、本部で対応を協議する。天候による試合実施の可否については、各チームに本部より連絡するので独自の判断をしない。

2 メンバー交換、次試合チームの準備について

- (1) 第1試合のメンバー交換及び攻守決定は、第1試合は試合開始予定時刻の40分前まで、第2試合以降は前の試合の4回終了までとする。各チームの監督及び主将は、本部から配布されたメンバー交換用紙（複写式）を持参し本部に提出する。攻守決定はじゃんけんにて行う。
- (2) 試合間隔は20分間を目安としているが、準備が整い次第、ゲームを開始する。
- (3) 次試合の両チームの先発バッテリーはメンバー交換後、ダブルヘッダーの待機チームの先発バッテリーは試合開始から1時間経過後にブルペンを使用することができる。

3 ベンチ入りメンバーの服装・装備品等について

- (1) ユニフォーム一式すべて同一のもので統一することを原則とし、連合チームや特別な事情等ある場合には、事前に本部に申し出て承諾を得る。
- (2) 監督は背番号30、コーチは28もしくは29をつけたユニフォームを着用する。
- (3) 団長・マネージャーは、その立場に相応しい服装もしくは背番号のないユニフォームを着用する。
- (4) サングラスを着用できるのは守備中の野手のみとし、メンバー交換時に審判員に申し出て許可を得たものに限り認める(レンズ部分が著しく反射するものは使用不可)。また帽子にサングラスをかける行為を禁止する。
- (5) ベンチ内でのメガホン使用は、監督に限る。
- (6) 捕手（ブルペン捕手含む）はマスク、レガーズ、ヘルメット、プロテクター、セフティーカップ、スロートガードを装備する。
- (7) 打者・走者・ベースコーチ・ネクストバッタースボックス内の次打者・ボールパーソン・バットパーソンはヘルメットを必ず着用。シートノックの補助員も同様とする。
- (8) マスコットバット、バットリング、鉄棒等、試合で使用しないものの会場への持込を禁止する。
- (9) テーピングは投手の指先は禁止、その他については審判員の判断に従う。

4 ベンチについて

- (1) ベンチは、組み合わせ表の若番のチームを1塁側とする。ただし、1チームが2試合続けて行う場合は、便宜上ベンチの入れ替えをしないことがあるので本部の指示に従う。
- (2) 試合終了後は速やかにベンチを空ける。
- (3) ハイタッチ等を求めるために、ベンチの外に出てはいけない。

5 試合前のウォームアップ・シートノックについて

- (1) 登録メンバー(団長・監督・コーチ・マネージャー・選手)と補助員3名のみとする。
- (2) ウォームアップをグラウンド内で行う場合は、外野を使用する。
- (3) 球場内ではフリーBT、ハーフBT、ロングティーなどの打撃練習は禁止する(第一試合のチームが外野で行っているケースが見受けられるが、一切禁止)。但し、トスBTは可。
- (4) シートノックは後攻より行い5分以内とする。但し、状況によって短縮、省略することもある
- (5) 補助員の服装は、選手と同じユニフォームを原則とする。また、シートノック中はヘルメットを着用する。
- (6) ノッカーは選手と同じユニフォームを着用する。

6 試合進行上の注意事項について

- (1) 攻守交代は全力疾走で行い、先頭打者とベースコーチはすみやかに所定の位置に着く。
- (2) 打者はみだりに打者席を外さない。監督やコーチのサインは打者席から見る。
- (3) 無用のタイムは慎み、試合進行に協力する。

7 応援について

次の禁止事項を守る。団長及び監督は、責任を持って事前に指導する。

- (1) 紙吹雪、紙テープ、個人名の入った幟(のぼり)などの使用。
- (2) 「野次」など相手に不利になるような言動。
- (3) 応援席のゴミの放置(施設管理者の指示に従い、チームが責任をもって処理する)。
- (4) 鳴り物(太鼓やラッパなどの楽器)を使用する応援。

【大会特別規定】

2024年9月13日現在
一般財団法人日本中学生野球連盟

1 使用できるバットについて

軟式用、硬式用、ローバウンドボール用の金属又は木製バットを使用する。

複合バットやカーボン素材(炭素繊維強化プラスチック)などの高性能高反発バットは、大会の開催目的の一つである「高校野球へのスムーズな移行」の観点から、全国大会における使用は不可とする。ただし、地方大会についてはその主催者の定める規定に従う。

2 投手の投球数制限について

投手が1日に投球できる球数を100球までとする(タイブレーク方式も含める)。

ただし、投球数が100球に達した打者までは100球を超えて投球してもよい。

※サスペンデッドゲームの適用で翌日に続行試合となった場合には、前回の投球数を継続する。

3 イニングおよび試合時間の制限について

イニングは7回まで、もしくは試合時間100分を超過した場合は新しいイニングに入らない。

ただし、試合は5回終了をもって成立する。

<例1> 先行チームがリードした状態で、6回表終了時点で100分を超過している場合は、6回裏は行い、7回には進まない。

<例2> 先行チームがリードした状態で、6回裏攻撃中に100分を超過し、後攻チームが逆転した場合は、その時点でゲームセットとする。

<例3> 後攻チームがリードした状態で、6回表終了時点で100分を超過している場合は、6回裏は行わない。

<例4> 後攻チームがリードした状態で、6回裏攻撃中に100分を超過した場合は、その時点の打席完了後にゲームセットとする。

<例5> 5回に入る前に100分を超過している場合は、5回終了(試合成立)まで行う。ただし、著しい時間の経過など特別な事情がある場合は、大会の円滑な運営や選手の健康等への配慮から5回を終了せずに試合成立とみなすこともありうる。

(注1) 計測は本部の時計を基準とし、試合開始と同時に試合開始時刻をアナウンスする。

(注2) 天候・ケガ等による中断があった場合は本部の判断によりロスタイムとし、試合時間には算入しない。

(注3) 決勝戦には適用しない。

4 コールドゲームについて

得点差によるコールドゲームは、適用しない。

暗黒や降雨などの悪天候等の理由により5回を終了して打ち切られた場合はコールドゲームとする。

5 サスペンデッドゲームについて

暗黒や、降雨などの悪天候等の理由により、5回を終了しないで中止した場合、または5回を終了して両チームの得点が等しい場合は、サスペンデッドゲーム（一時停止試合）とし、翌日の第1試合に先だって続行試合を行う。

6 タイブレイク方式について 無死一二塁スタート

7回終了もしくは100分を越えた回の裏の攻撃が終了した時点で、両チームの得点が等しいとき、以降の回の攻撃は無死一・二塁の状態から1イニング行い、勝敗が決しない場合には以後継続打順でこれを繰り返す。

(1) 打者は、前回正規に打撃を完了した打者の次の打順（継続打順）の者とする。

(2) 走者は、前項による打者の前の打順の者が一塁走者、一塁走者の前の打順の者が二塁走者となる。

(3) この場合の代打及び代走は認められる。

(4) リーグ戦形式で、失点数や得点数が順位決定に優先される条件とされている場合は、タイブレイク方式における得失点数は算入しない。

7 指名打者について

指名打者を使うことができる。規則適用上の例を下に示す。(公認野球規則5.11)

(1) 投手以外に指名打者を使うことはできない。5.11(a)(1)

(2) 試合開始の時点で指名打者を指名しない場合は、試合の途中から指名打者を使うことはできない。
5.11(a)(3)

(3) 指名打者の役割が消滅する場合。(その後、その試合では指名打者を使えない。)

・投手が他の守備位置につく。

5.11(a)(8)

・投手が指名打者の代打・代走をおこなう。

5.11(a)(10)

・指名打者が守備位置につく。

5.11(a)(12)

・他の守備位置の選手が投手になる。

5.11(a)(14)

(4) 投手に代わる打者を指名する義務はない。先発投手自身が打つ場合は、別々の2人として考えることができる。(いわゆる“大谷ルール”のこと。)この場合、監督は自分のチームの打順表に10人のプレーヤーを記載し、このプレーヤーにおいて、1つは先発投手、もう1つは指名打者として2度同じ名前を記載する。5.11(b)

8 守備側のタイムの回数制限について

(1) 監督またはコーチが投手のもとへ行ける回数は、7イニング中に三度以内とする。なお、タイブレイク方式は、1イニングに一度とする。

(2) 「監督またはコーチが投手のもとへ行く」との定義は、タイムを取るかボールデッド中にグラウンドに出て、ファウルラインを超えて投手または投手を含む野手が集まっている所で指示を与える行動を示す。投手の方からファウルラインを超えて監督に指示を受けた場合や、伝令を使ったり捕手または他の野手に指示を与えて投手のもとへ行かせたりした場合も同様とする。これらはすべて審判員が判断する。

(3) 公認野球規則5.10(d)【原注】(投手は1イニングに投手以外の守備に2度以上つくことは許されない。)と、公認野球規則5.10(l)(2)【原注】(1イニングに投手へのアドバイスのためにタイムが2回とられた場合は自動的に投手交代となる。)は適用しない。

9 捕手または内野手が投手のもとへ行く制限について

- (1) 捕手または内野手が投手のもとへ行ける回数は、7イニング中に三度以内とする。なお、タイブレーク方式は、1イニングに一度とする。
- (2) 捕手または内野手が投手のもとへ行き、その後、その場に監督またはコーチが行けば、双方一度として数える。ただし投手交代の場合はその回数に含まない。
- (3) 集まることができるのは投手と捕手を含めた内野手、伝令、監督またはコーチのみとする。
- (4) これらのカウントは、すべて審判員が行う。

10 攻撃側のタイムの回数制限について

攻撃側のタイムは、7イニング中に三度以内とする。なお、タイブレーク方式は、1イニングに一度とする。

11 臨時走者について

塁上の走者に事故が起きた場合に、審判員が必要と判断したときは、臨時代走の処置を行うことができる。なお、打者が頭部へヒットバイピッチを受けたときには、その強弱を問わず臨時代走を適用する。臨時代走者は、投手を除く打順前位の者とする。

12 選手交代の申し出について

選手交代の申し出は監督が行う。

13 コーチスボックスについて

監督・コーチはコーチスボックスに立つことができる。ヘルメットを着用すること。

14 ルール上の疑義が生じた場合について

監督が審判員に当該事案につき1度の確認を求めることができるが、確認後の判定には従わなければならない。それでもなお争いがある場合には、円滑な競技進行及び大会運営を図るため、教育的観点に則り主催者が最終的に裁定を下すことがある。